

## 令和3年度 第2回学校評議員会

11月10日（水）10時00分より、4名の評議員出席のもと、第2回学校評議員会を開催しました。

今年度の学校評議員は、次の方々です。

- ・菊地ひとみ 様（社会福祉法人札幌肢体不自由福祉会 施設長）
- ・北條 俊介 様（本校 PTA 会長）
- ・戸倉 聡 様（医療法人仁友会日之出歯科真駒内診療所 会長）
- ・高橋 和明 様（札幌大学 教授）



はじめに校長より第1回目の学校評議員会以降の本校の学校経営の状況について説明を行いました。続いて校内の授業の様子と掲示物をとおして開校60周年「感謝のつどい」に向けた教育活動の様子を見ていただきました。その後、副校長・教頭より「本校の働き方改革に関する取組」「GIGAスクール構想に対応した本校での取組」「コミュニティ・スクールに関する取組」について、今年度の具体的な取組をスライドで紹介しながら説明を行いました。

委員の皆様からは、ご説明した教育活動の取組について、次のようなご意見をいただきました。

- 「働き方改革」については私の施設でもこれからというところである。施設の利用者様がお帰りになった後の業務時間をいかに有効に活用していくのかということが課題である。また、職員の休憩時間をどのようにとっていくのかについても課題がある。学校とは違い、一斉に職員が休憩時間をとるというような状況になっていないので、分割しながら利用者様に迷惑にならないよう休憩時間を設けている。そのような課題などについて、学校でも委員会や推進チームなどで検討しながら行っていることが理解できた。しかし、どうしても管理職、ミドルリーダーなど同じようなメンバーがそのような会議の中心となってしまう、その人達が会議など多くの時間を費やしてしまう。私の施設でも管理する側、チーフなどの働き方の問題が解決されていない。そこが大きな問題だと考えている。
- 教育だけではなく他の職種もそうなのだけれども子供たちのために教材を作ったり、よりよい授業に向けて取り組んだりしていくときにこれでいいというゴールはないと思っている。そこを考えると「働き方改革」は相反するテーマであり、難しいテーマでもある。その中でもICTの活用はピンチをチャンスに変えていくきっかけになっていくものと思う。昨日、学生（教育実習生）の授業で子供たちの活動を撮影した動画をすぐタブレットで見ながら振り返りを容易に行っていた。数年前は、行事の中でどう活用していくかということから始まっていたが、現在では日常の学習の中に活かされてきていると感じた。また、コミュニティ・スクールの導入に関わる学校運営協議会について、これまでの学校評議員会とどのような違いがあり、導入された後に学校の教育活動がどう変わっていくのかということについて、もっと校内の教職員や地域の皆さんに分かりやすく伝えていくことが大事であると考えている。
- ICTの活用について、今後益々その必要性については進んでいくのだと思う。学校の教育活動の中に取り入れていくことによって子供たちの学びも広がっていくので、取組を進めていっていただきたいと思う。Googleの機能の活用に関する説明があったがセキュリティの面がどのようにになっているのか気になったところであり、万全を期した取組が必要であると感じる。また、働き方改革を推進していく中での職員のモチベーションの低下も言われてきているところである。教職員のモチベーションをどう維持した取組を行っていくのが大切であると考えている。
- 学校の働き方改革については、校長はじめ全教職員が対象として進めていくことが大切である。管理

する側が先陣をきって、多くの先生方と一緒に進めていくことが必要であると考え。また、ICTについての活用については様々な形で広がってきている。マイナンバーカードなど保険証の代わりに活用できるようにもなってきていて、国も進めようとしているが、なかなか進まないという現状もあつたりしている。そこにはセキュリティの問題があるからだと考えている。そこで学校でも安心してICTの取組を進めていこうとする場合には、セキュリティの問題について注意しながら進めていくことが大切であると考え。

(最後に校長より)

「働き方改革」についてまだ時間外勤務の縮減ととらえられている側面がある。確かに時間外勤務の縮減が進んでいくことは望ましいことではあるが、学校では児童生徒下校後、17時の退勤時間までの業務をいかに効率的に進めていくことができるのかについて考えている。会議や資料の作成など業務上最低限必要なこともあり、一気に業務を減らすことは難しい。仕事がスムーズにできるようになった、早く取り組めるようになったなど仕事の環境面を整理していくことが重要であると考えている。実際に業務に取り組んでいる教職員から様々なアイデアや意見を募集しながら、一歩ずつでも効率的な職場環境を実現させていきたい。また、コミュニティ・スクールの導入については、地域の方々、ボランティアの方々にも教育活動に参画いただき、いろいろな方の考え、発想を教育活動に取り入れながら、これまでよりも子供たちへの教育活動を広げ、豊かにしていきたい。ICTの活用の広がりには障がいのある子供たちにとって夢があり、いろいろな可能性を秘めているものと考えている。

コロナ禍において様々な制約がありながらも、今年度これまで進めてきた取組を皆様にご紹介することができた。今後も地域との繋がりの中で、各取組を着実に進めて参りたい。

(文責：教頭 渡 邊 憲 幸)